

子どもの貧血対策が胃がん予防につながる!

医監 藤本 茂紘

国民病といわれてきた「胃がん」、肺がんに1位の座を譲りましたが全世界の胃がん死亡者の12分の1を日本人が占めています。その発症にピロリ菌という細菌が大きく関与しその実態が明らかになるにつれ、世界の30億の人が感染し、そのうち7割の人は症状もなく健康保菌者ですが15~20%の人が消化性潰瘍を、5~10%の人が胃がんを発症しています。

強酸性の胃酸を分泌している胃の中では結核菌のような抗酸菌は別として細菌は生きていけないというのが常識でした。しかし100年前に小林登六博士がその常識を疑い、30年前にオーストラリアのウオーレンとマーシャルとが菌の存在を確定しノーベル医学生理学賞を受賞しています。

そこで、これまでの調査研究を参考に少し解説してみました。

まず、なぜ強酸性の胃の中で生きていけるか？胃に入ったピロリ菌はウレアーゼという酵素で尿素をアンモニアに変え、これが胃酸を中和することで胃粘膜に到達することができます。そして胃の細胞内に数本の針を差し込み毒素(CagA)を注入して胃粘膜を破壊します。CagAは欧米型と胃がんの引きがねになる毒性の強い東アジア型とがあり、日本人の菌は東アジア型です。

次に、どのようにして感染するのか？

この菌に40歳以上の日本人は7、8割が感染していますが若い世代は数%です。この差は井戸水を生活水とした世代か否かの違いだといわれており、中高年の感染率が高いことから胃がん発症はもうしばらく続きますが、若い世代では低いので将来は大きく減少すると思われる。しかしピロリ菌は経

口感染しますので、子どもへの口移し防止や汚物処理後の手洗いの励行など日常的予防策をしっかり行うことで感染予防に努めなくてはなりません。

では人の健康にどのような悪さをしているのか？胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃がんの人の90%以上がピロリ菌に感染しています。ピロリ菌感染胃炎の人を10年間観察したところ胃がんを発症した人は2.9%でした。さらにピロリ菌陽性の人と陰性の人を8年間観察し胃がん発症リスクを比べたところ陽性の人陰性の人5.1倍、ピロリ菌陽性CagA陽性の人ピロリ菌陰性CagA陰性の人12.5倍でした。これらのことからピロリ菌感染がいかに胃がん発症に関与しているか、お分かりいただけたいと思います。

ところで2005年頃から特発性血小板減少性紫斑病や鉄欠乏性貧血など消化器系以外の疾患にもピロリ菌の感染が注目されるようになりました。

10歳以上の鉄欠乏性貧血で鉄剤の効きが悪いとか、再発を繰り返す人は30%います。この人達をピロリ菌除菌治療することで貧血が治った事例が報告されています。

当協会による児童生徒の貧血検査で「要受診」者は約9%です。薬が効きにくいとか再発を繰り返している児童生徒にピロリ菌検査を行い、陽性の場合には除菌治療をしながら、家族等接触者のピロリ菌感染の有無を確認することで、感染の拡大や再発そして胃がん発症を防止・予防する一児童生徒の貧血検査事業を介して胃がん予防対策づくりに取り組んでみる。いかがでしょう。

ピロリ菌って、これからもまだまだ目が離せません。

Santé
Quiz

子どもの健康づくりは「○寝○起き朝ごはん」から。
○に入る言葉はなんでしょう。

クイズの答えをお寄せ下さい。正解者の中から抽選で7名の方に図書カード(500円)を差し上げます。ハガキに答えと、郵便番号、住所、氏名、「サンテ宮崎」をどこで見られたか、取り上げてほしいテーマ、感想などをお書き添えのうえ、右記へお送り下さい。メッセージはこのページで紹介する場合があります。応募により得られた個人情報は、当選発送のみに使用します。

切手 〒880-0032

宮崎県健康づくり協会
「サンテ宮崎」編集係
宮崎市霧島1-1-2

★答えは次号で発表します。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。
★応募締切
平成25年10月10日(休)
当日消印有効